

ウダヤナ大学への協定留学 月例報告書（2023年6月分）

留学先大学：ウダヤナ大学人文学部日本文学学科

氏名：森下千裕

◎日常生活

今月半ばに大学の後期授業が終了したこともあり、課外活動が中心となった一ヶ月でした。授業終了後の6月半ばには、バリで年に一度、約1ヶ月にわたって開催されるバリ芸術祭が始まり、このための練習を見学したり、毎日催される舞台を鑑賞したりしています。

◎大学生活を振り返って

大学での授業は、6月の半ばをもって終了しました。今月もオンライン授業に変更になることが多く、キャンパスに出向く回数は少なかったです。日本の大学での授業形態との違いに戸惑いながらも、前期と後期、約1年間の授業を無事に終えることができました。

日本での授業との最も大きな違いは、どの授業においてもグループワークが中心であるということだと感じます。日本の学部で私が履修した授業は、そのほとんどが先生のお話を聞く講義形式でしたが、今回の協定校では、ディスカッションや発表を含めたグループワークが8割、先生のお話が2割くらいだと感じました。グループワークは、友人たちとの交流を深めることができるという楽しい点もある一方で、授業時間外もグループメンバーと時間を合わせて集まったり、オンラインで準備をしたりしなければならないという難点もあります。またそれだけでなく、突然の授業日程の変更も頻繁にあるため、課外活動のスケジュールとの兼ね合いに悩む時もありました。インドネシアの学生たちは、日本のようにシフト制のアルバイトをすることがほとんどないため、グループワークに多くの時間を割くことも、突然の日程変更にもすぐに対応できるのだそうです。日本の学生と比べると、授業時間外にも課題や勉強に向き合っている時間が長いと感じます。インドネシアの学生たちは、アルバイトをして自分でお金を稼ぐことに憧れを持っている人が多いと話していましたが、アルバイトに多くの時間を割いていた自分の学部時代を思うと、友人とグループワークをしたり、大学での活動にしっかり向き合う学生生活はとても素敵な時間だと思います。

今回、日本語や日本の文化を学ぶ学生たちと一緒に勉強できたことで、バリの芸能や文化を学ぶ私にもたくさんの刺激がありました。クラスメイトのなかには、これから日本に留学する友人もいるようで、お互いがんばりたいと思いました。

◎バリ芸術祭

今年もバリ芸術祭が始まりました。毎年6月半ばから7月半ばまでの一か月間、アートセンターと呼ばれる地域の文化施設にて、入場無料で毎日さまざまな公演を鑑賞することができます。人気の公演では、約2時間前から場所取りをしなければならないほどです。

芸術祭の様子



⇐会場に入らずに、
外のモニターを通じて
鑑賞する観客たち。



⇐今年の芸術祭のテーマは、
Segara Kerthi
繁栄の源として海を賛美す
るように努める、という意味
が込められているようで、水
や海にまつわる芸能作品が
多く上演されている。

